

第二章活用事例

「心しなやかに」小学校三・四年生版 p.110
「いのちをかがやかせよう」 p.111

中心資料

「ヒキガエルとロバ」(私たちの道徳 小学校三・四年 平成二十六年三月 文部科学省)

【主題名】 生命あるものを大切に

第二学年及び第四学年 3-1

「生命の尊厳を感じ取り、生命あるものを大切にする。」

【ねらい】 生命の尊厳を感じ取り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

《ねらい》は、道徳的価値について《三・四年生の時期の児童は、現実性をもって死を理解できるといわれます。特にこの時期に生命の尊厳を自覚できるように指導する必要があります。誕生の話や命を輝かせた経験の振り返りなどを通して、生を受けたことの素晴らしさを感じたり、自分の生命の尊厳を知ったりして、同様に生命あるものすべてを大切にしようとする心を育てることが大切です。》



「自分の命が輝いていると感じるのは、どのような時でしょうか。」

導入

○事前に「心しなやかに」¹¹⁰に家庭で記入させておき、発表させて本時の学習に対する問題意識をもたせましょう。

○家庭で事前に書かせることで、家庭との連携を図ることができま

す。
○教師が「ヒキガエルとロバ」を読み聞かせましょう。



「ヒキガエルに石をぶつけている時、アドルフたちはどのような気持ちだったでしょうか。」

○ヒキガエルに石をぶつけているアドルフたちの様子に着目させ、安易な考えから生き物を傷つけてしまう行動や、その時の心情を捉えさせましょう。



「懸命にヒキガエルを避けようとしているロバを見て、アドルフたちはどのようなことを考えていたでしょうか。」

○生き物が生き物の生命を救おうとしている様子に着目させ、生命がかけがえないものであることへの自覚を深めさせましょう。

中心発問



「遠く去っていくロバの姿とヒキガエルとを眺めながら、アドルフたちはどのようなことを考えていたでしょうか。」

○命を救ったロバと命を救われたヒキガエルを見つめるアドルフたちの様子を通して、生命の尊厳や生命あるものを大切にすることへの理解や考えを深めさせましょう。

《評価》 生命の尊厳についての自覚を深め、生命あるものを大切にしているこうとする心情をもつことができたか。



「生命あるものを大切にするには、どのようなことを心掛けていけばよいでしょうか。」

○身の回りに様々な生命が存在することに目を向けさせ、それらを尊重しているこうとする心情を深めさせましょう。

終末

○「心しなやかに」¹²⁰～¹²¹「生きているって・・・」を読み、授業のまとめとしてまじよう。

板書例

命がかがやいていると感じる時

- ・運動会で思い切り走り切っている時。
- ・外でみんなとあそんでいる時。
- ・ご飯をおいしく食べている時。

ヒキガエルとロバ

ヒキガエルに石をぶつけている時、アドルフたちはどのような気持ちだったでしょうか。

- 気持ち悪いから、いじめてやれ。
- ヒキガエルに石が当たると面白い。
- ゲームみたいで楽しい。もっと当ててやれ。

けん命にヒキガエルをさげようとするロバを見て、アドルフたちはどのようなことを考えたでしょうか。

ヒキガエルを見守る子供たちの挿絵

- 自分も苦しいのに、どうしてロバはヒキガエルを助けようとするのだろう。
- ロバは、このヒキガエルの命を救ってやりたいと思っているのだ。
- このロバは、ヒキガエルの命が大切なものだと思っているのだ。

遠く去っていくロバの姿とヒキガエルとをながめながら、アドルフたちはどのようなことを考えていたでしょうか。

- 自分たちはロバに負けた。はずかしい。
- 自分も命を大切にすることをもちたい。
- 自分たちはヒキガエルにひどいことをした。もうこんなことはやめよう。
- 命はとても大切なものだ。これからは動物の命も人間の命も大切にしよう。

ロバの後姿を見ている子供たちの挿絵

生命あるものを大切にするために心がけること

- 弱い生き物や小さな生き物をいじめたり傷つけたりしないようにする。
- 命の重さはみんな同じだということを、いつも忘れないようにする。
- まず自分がいるいるなことに一生けん命取り組んで、自分自身の命をかがやかせようようにする。

《評価》

生命の尊厳を感じ取り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てることができたか。